

# 教育そのものを問い直せ!! TOKOな日々

越谷市 中山



10月2日(日)、障害児を普通学級へ・全国連絡会主催が主催する「ストップ!個別カルテ 共生共育計画をつくろう」と題する集会が東京の千歳烏山で行われました。

集会では、まず、個別カルテが障害を医学モデルとして扱い、障害者の生き方そのものを管理していく発想を持つ問題、さらにそこから読み取れる分離別学体制の問題、そして教育の場に競争主義と評価主義を持ち込む教育再生実行会議そのものの問題というように、大きく3つに整理した問題提起が行われ、その後、池田賢市さんによる『『多様な個性』による問題の隠蔽～教育再生実行会議『第九次提言』を読んで～』と題した講演がありました。

## 分類に隠れている意味

池田さんは、まず分類するという行為が実は権力性、差別性をはらんでいることから話を始めました。分類という行為は近代科学の手法といえますが、実は似ているものを無理やり一か所に集めて名前を付ける作業であり、誰にとって似ているのか、なぜ分類する必要があったのかの問題なのだといいます。だから、学校で行われる「気になる子」、「問題のある子」、結果として「障害児」がつけられていく分類も、誰が気になったのか、何故問題だと意識されたのかを考える必要があるということです。

そして、教育再生実行会議について言及します。会議は、科学技術とグローバル化の進展により、創造性や感性など機械では置き換えられないものが求められていくという社会観から、子どもたちの能力を最大限に伸ばしていく必要があると考えているようです。最大限に伸ばしていくためには、訓練効率が重要になります。本来ならば、「障害児」、「不登校」、「貧困」、「外国籍」というように子どもたちに対して、その存在を生み出す社会的な要因や困難さに目を向けるべきなのに、訓練効率を上げるため、何故という問いかけなしに分類し、多様な場を用意するという提言を出していると断じます。

この池田さんのお話から、教育は何のためにあるのか、能力や適性とは何かというシンプルだがとても重要な疑問が生まれてきます。国が必要とする良質な労働力を確保するため、その費用対効果を最大限に発揮するための分類、排除が実は今の教育システムの姿ではないのか？能力や適性とはそのシステムの中で価値が与えられているだけではないのか？そして、その動きはこの数年という短い期間で始まったものではない、かなり昔からの動きではないのか？「個別カルテ」だけが問題なのではない、今の教育を根本から問い直す必要があるのではないのか？

## 支援計画のいい加減な作られ方

池田さんの話に続いて、東村山市の小学校教員である宮澤さんから現場からの報告がありました。この報告がまたひどくショッキングな内容でした。今、学校では子供の診断ブームで、教員が



中途半端に発達障害の知識を持ってしまって、学校文化になじまない子供を簡単に特別支援学級に送り込もうとしているというのです。そのために支援計画が使われます。その支援計画がどのように作られているかがさらにショッキングでした。パソコンの画面が映し出され、空欄にマウスを合わせると、たとえば「人間関係」とか「授業を受ける姿勢」とかがリストとして出てきて、そのうちの一つを選ぶと次にさらに細かい内容として、「一人でいることが多い」とか「友達が少ない」とか出て、それも選択すると、今度は対策として声かけうんぬんという文言がリストに出てくるという仕組みで、ほとんど教員が書き込みすることなく、リストから選ぶだけで支援計画が出来てしまうのです。もちろんリストから選ばずに任意の文言を入力することも可能ですが、教員の多忙が言われる中、それをわざわざする人がどのくらいいるのかと思います。こうやって、どこの誰がつくったかわからないお仕着せのリストから文言を選んで支援計画が出来上がり、それを元に特別支援学級が適当とか医療の受診が必要とか、「その子に合った特別な支援」が進められているというのです。



### それでも個別支援にやられちゃって

「個別支援」、「その子に合った特別な支援」という言葉は、障害を持っている子供の一生を思い悩んでいる親にとって、耳に快く響きます。実際に、全国連の事務局としては、分けられたがっている親が増えている状況に頭を悩ませているようでした。分類してそれぞれに合った支援が何を軸に行われているか、池田さんの指摘を改めて振り返るまでもありません。今の教育システムをもう一度問い直すことから始めることこそが、「個別支援」という幻想から解放される道なのだと思います。

集会の最後に、北村小夜さんから、「個別カルテの問題もいいが、前回の集会で提起した、分けないで共にと運動をもっと進めていくことはどうなったか？もともと分けなきゃいいわけだから」という発言がありました。原点に立ち返らされる言葉でした。

## 今後の予定

**就学ホットライン 10月18日(火)、19日(水) 午前10時～午後6時**

親、当事者、教員、応援者などが経験をもとに相談にのります。

**電話番号 049-266-4987**(ふじみ野市 埼玉障害者自立生活協会)

**埼人協集会での報告 10月29日(土) 嵐山女性教育会館 午後1時～**

埼玉県人権教育研究協議会主催の集会、第3分科会で共に学ぶ事例の報告を行います。

### TOKO おしゃべり会

毎週第2金曜日午前10時半から  
生活ホームオエヴィスの居間にて  
11月は11日 12月は9日です  
連絡先/ **中山 090-2202-5271**  
**藤ヶ谷 048-761-9921**

### 定例会開催

**ダ・サイタマおしゃべり会)、**  
毎週最終土曜日  
浦和コムナーレ (パルコ9階)  
10月は22日、11月はお休みです。  
連絡先/ **竹迫 048-942-7543**  
**門坂 090-6658-4519**